

令和5年度多摩市立諏訪小学校学校経営方針

多摩丘陵に位置する本校は、かつて中諏訪小学校と南諏訪小学校との統廃合によって新設されました。あれから30年が経とうとしています。現在は開校当時より2学級増の14学級と特別支援学級「なかよし学級」、特別支援教室「つばさ」で構成され、本年度当初の児童数は431名です。

開校当初言われた、2校が一緒になった「発展的統合」は、子供たちにとってよりよい環境を整えることにその意味がありました。このことを踏まえつつ、昨今の教育課題等に応えながら、本年度の教育活動を推進していきたいと思えます。

1 「多摩市子どもみらい会議」への参加を契機として

本年度、本校の6年生が「多摩市子どもみらい会議」に参加する予定です。これは、諏訪中学校を中心とし、北諏訪小学校との3校が連携して取り組みます。これは、多摩市が掲げるE S D (Education for Susitainable Development、持続可能な開発のための教育)、つまり「これからの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現する」教育を実現するために行うものです。

本校では、例えば農園を活用しながらこのことに応える教育活動を行ってまいりましたが、今年度「多摩市子ども未来会議」に参加することを契機とし、本校の教育活動の一層の充実を図りたいと考えています。

その際にキーワードになるのは、「探究的な学び」です。今まで用いてきた「問題解決活動」とほぼ同じ意味として捉えられる用語ですが、子供たちが主体的に問題を解決し、学んだことを生活にも生かしていくこと、さらにはこれらの活動から新たな思いや願い、問いをもって追求し続ける学びの姿を求めていくこととなります。このことは、すでに学校だより4月号でもお伝えをいたしました。

正直に申し上げ、このことは私共にとっては常に難解であり、さらなる工夫等が必要です。しかし、2050年の大人づくりなどとも言われ、また多摩市で昨年度制定された「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」にもあるように、若者が社会の形成者として主体的に参画するための資質・能力を育成することは、本校でも急務です。

以上を重要課題として捉え、この1年間取り組んでまいりたいと思えます。

2 コミュニティ・スクール導入から2年目

昨年度より、本校は、学校と保護者や地域の方々が連携・協働しながら子供たちの学びと成長とを支えるための「コミュニティ・スクール」となりました。

私は、着任以来申し上げてまいりましたが、平成29年4月に当時の中井敬三教育長が私共に述べた理想の学校像「保護者が「子供たちを通わせてよかった」と思う」「地域住民が「愛している」と感じる」「教職員が勤務をしていて「やりがい」を感じる」を目指してい

きますが、このことは、まさしく「コミュニティ・スクール」の礎である、と捉えることができます。

このことを踏まえながら、何よりも「子供たちが「諏訪小学校に通って楽しい」と感じられる学校」を目指していきます。御理解を賜りたく存じます。

3 教育目標

学校は子供たちに「生きる力」を育むために教が育活動を行う場ではありますが、具体的な三つの要素は、が言われる以前より掲げられている本校の教育目標と合致しています。教育目標は、「かしこくー広く学び、考えよう（確かな学力）」「やさしくー共に感じ合い、認め合おう（かな人間性）」「たくましくー体をきたえ、元気に過ごそう（健康・体力）」となっていることからこのことが分かります。

私共は、教育目標の達成のために、特に「探究的な学び」を常に念頭に置きながら、教育活動に取り組んでいきます。以下、具体的に述べます。

(1) 「かしこく」(確かな学力) (重点目標)

①目指す子供たちの姿

基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、これらを活用しながら、自ら課題を見いだしてこれを解決し、自ら判断したり行動したりするようにする。

②具体的な手立て

子供たちが主体的に、自分の思いや願い、問いを解決する力を育成できるようにする。

そのために、例えば、算数科では「少人数習熟度別学習」を取り入れる（人員配置の関係で当面は学級単位の学習となります）、国語科では今までの校内での取組を踏まえて「読む」活動を軸とした「子供たちに委ねる学習」を行う、社会・理科を中心に「問題に対する予想をもつ→予想を確かめる→結果等から性質や特色、法則等を明確にする」そして「学んだことを活用する」学習活動を展開する、といった工夫をしていきます。

さらに、低学年では生活、中・高学年では総合的な学習の時間を軸として、教科等で学んだことを生かした学習活動を行っていきます。冒頭にお伝えをした「多摩市子どもみらい会議」はこのことを踏まえた位置付けになります。

(2) 「やさしく」(豊かな人間性)

①目指す子供たちの姿

自分のことを律しつつ粘り強く最後まで取り組もうとしたり、仲間と協調したりすることを通して自他を認めようとする。

②具体的な手立て

- 1) 特別の教科 道徳の充実ー考え、議論する学習を目指して
- 2) 通常の学級と特別支援学級との交流活動、共同学習の推進
- 3) たてわり班活動における多様な関わりー「上学年は下学年を慈しみ、下学年は上学年にあこがれる」ように（役割の明確化）

4) 栽培活動（例：野菜の栽培→「すわっ子市場」（販売活動））

（3）「たくましく」（健康・体力）

①目指す子供たちの姿

健康でかつ安全に生活するための知識や技能を身に付けるとともに、これらを生かしながら安心して生活しようとする態度を養う。

②具体的な手立て

- 1) 「体力アップ週間」（縄跳び（長縄等）他）
- 2) 多くの人々が「運動をしたい」という欲求を充足させるための取組等の理解
（オリンピック・パラリンピックのレガシーとして）
- 3) 体育学習の充実
- 4) 保健指導の充実－自身の健康を見つめるために

4 教育活動を支える本校の教育のあり方

（1）はじめに

新型コロナウイルスへの対応も大きく変わり、特に、マスク等の扱いについては新年度より着用すること、外すことを強いることのないようにいたしました。このことを踏まえつつ、従来通り「できることはやる」「できないことはできない」を念頭に置きつつも、対策を十分に講じながら教育活動等のさらなる充実を図りたいと考えています。

（2）「いじめは絶対に許さない」「不登校への対応」

平成25年度に制定された「いじめ防止対策推進法」により、法律の面からもいじめは許されないこととなりました。いじめに対する関心は一層高まった、とも言えます。しかし、それでもいじめはなくなり、その対応の難しさも指摘されています。私共は、改めて「いじめは絶対に許さない」ことを子供たちに指導してまいります。一方で、「いじめは起こり得る」ことも確認し、平素より子供たちに指導をしながら「未然防止」を心掛け、複数の教員で観察等を行いながら「早期発見」すべく緊張感をもち、万が一起こった場合には「早期対応」できるようにしてまいります。

不登校については適切に対応できるように努力してまいります。何よりも、学校・学年・学級が子供たち一人一人にとって居心地のよい環境になるように努めてまいります。また、子供たちが登校を渋るなどの事態に至った場合には、状況を的確に把握し、また子に応じた対応をしてまいります。併せて、スクールカウンセラーをはじめとする多くの教職員と連携を図りながら対応をしてまいります。

（3）特別支援教育の充実－一人一人の教育的ニーズに応えるために

私共は、子供たち一人一人がもつよさを大切に、また生かすためにも、個々に寄り添いながら教育活動を進めたい、と願っています。しかし、一方で、例えば、集団において友達とうまく関われないことや学級等で学習活動を円滑に行うことが難しい場合もあります。

本校には、学習環境や指導形態等を工夫して一人一人に応じた教育を行う特別支援学級「なかよし学級」と、一人一人の教育的ニーズに応じて個別指導や小集団指導を行いながら在籍学級での生活や学習活動等が一層円滑に行えるようにすることを目指す特別支援教室「つばき」があります。これらは、本校にとって、個に応じた教育の大切さを常に確認する上でなくてはならない環境と捉えています。

保護者の方々には、以上の点から改めて特別支援教育についての御理解を深めていただきながら、教員から御相談を申し上げることもあることをお含み置きいただきたいと思えます。また、お悩み等がございましたら、ぜひ御相談をくださいませ。

(4) ICT教育の推進

タブレット端末については、それぞれの学年が実態等に応じて活用されており、今後もさらに効果を上げる、と捉えています。一方で、学習成果を上げるために、タブレット端末の活用に注力しすぎず、効果的に用いる大切さも指摘されるようになりました。今後も「よりよい使い方」を明らかにできるようにしてまいります。また、「情報モラル」についても確実に指導をしていきます。

(5) 環境整備

昨年度行われましたトイレの一部改修により、本校の教育環境整備が進みました。今後は、改めて環境を整備すべくできる範囲ということにもなりますが、努力をしていきたいと思えます。

(6) 最後に

すでに広く浸透された「働き方改革」は、学校で言えば教職員の業務の効率化を図りつつ健康の保持増進を図るなどの改善を推進していくこととして位置付けられています。保護者の皆様には御理解と御協力を賜れば幸いです。

しかし、子供たちの活動に関しては、効率的、が必ずしも合致するとは言えません。急激な変容が見られる一方で、なかなか成果が上がらない場面も少なくありません。成果に至るまでには、失敗を繰り返しながらあきらめずに粘り強く取り組む姿も大切です。

Fesitina Lente-ゆっくり急げ、という言葉があります。結果を早急に求められるときこそ、解決方法を冷静に探るべく焦らずにゆっくりと行いなさい、という意味が込められているのだそうです。また、子供たちは時にのんびりと、「牧歌的」などと言われる雰囲気を取り組みたいと思うでしょう。

広いグラウンド、冒険の丘、栽培園といった素晴らしい環境を生かしつつ、教育活動の充実を改めて考えていきたいと思えます。

1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和5年4月

校長 齋藤 幸之介